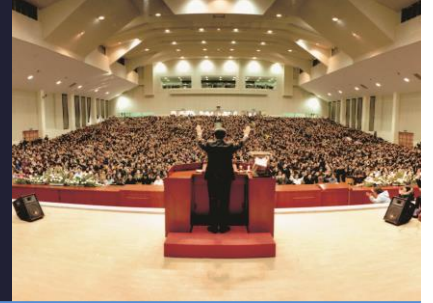


# 恵みと真理のニュース



2019年2月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



## [証]

### 愛が充満で善のなる神様が私を選んでその選ばれた希望が何か悟るようにしてくださいました

私は高校を通過している時期にイエス様を信じる生活を始めました。ところが、その時、母が“偶像、神かり”になって家族の中で言い争いました。悪い霊にとらわれた母は私が教会に行けないようにしました。更に一週間も寝なくて私に神様を信じることをやめるように強要することもありました。そんな母の姿を見て私は霊的な世界が存在するのを確実に知るようになりましたが、親の反対を克服できませんでした。結婚したばかりまで主を離れて生きました。

1986年に職場で人事異動で新しい勤務地であるイワン地域に引越しました。隣の家に住む恵と真理教会の区域長がわたしの妻を熱心に伝道しました。妻はたまに区域長をついて礼拝に参席しました。肩に慢性炎症を患っていた娘が牧師に按主祈りを受けて癒しの恵みを体験しました。

このことを着掛けにして妻はもっと熱心に教会に通いました。ところが妻が教会に行ってきた次の日には田舎に住んでいる母から間違いなく“なぜ、教会に行ったのか。としかる電話がかかって来ました。この事が繰り返して結局、妻も中道で信仰生活を諦めてしまいました。

その後、さまざまな事で夫婦の間の意見が異なって酷く言い争う事が多くなりました。そうして家庭生活が平安ではありませんでした。そうするうちに妻も母のように悪い霊に捕らえられました。周りの人々は母に捕らえられた霊が妻に移ったようですと話をしました。周りの人々から占い師に行ってみなさいという勧めもありました。義弟が妻をある祈る所に送りました。初めて切ない心で神様を探して神様に祈りました。

その時から4ヶ月が過ぎ、親が尋ねて来て“家族の中で宗教的な葛藤があって衝突が起こると一つが負けるしかないで親が負けるから、これから心配しなくて教会にまじめに行って健康な姿で戻って来なさい。”と言われました。以後、6ヶ月が過ぎて妻が霊的な健康が回復されました。妻の治療のため前に進めて祈りながら私も前と違って強い信仰を持つようになりました。92年度から恵と真理教会の聖徒として新しい心で神様を畏れ、愛し福音を伝える生活をするようになりました。

熱心に教会に通う中でわたしの家の祭祀の問題で苦難がありました。神様の助けを求める祈りを多くしました。お盆を控えて期間を決めて祈りはじめました。親の反対を克服してください、問題がよく解決するように助けてくださって本当に感謝します。名節ごとに祭祀の問題で私と他の家族とけんかしないように不信家族の心を変えてください。と切に祈りました。お盆を一週間控えて朝早く一人で祈っていましたが、“強く雄雄しくあれ！”と御言葉を下さる主の声が聞こえてきました。すると苦しかったわたしの心が自由になり主が下さる平安と弾力がわたしの心が充たされ

ました。私は祈りに答えてくださる神様に感謝を捧げて普通と違って楽な心で故郷で走って行きました。お盆の朝、母が私を呼んで“あなたはイエス様を信じる人なのでサタンが来てあなたを見たら逃げたしまうので大きい家でも小さい家でも祭祀を行うところは来なくても良い。これから家の祭祀は参席しなくても良い。”と言われました。

そのこと以外にも以後、さまざまな難しい問題によって神様を仰ぎながら祈るたびに神様が答えてくださり、時によって助けてくださる恵を与えてくださいました。特に信仰生活が怠るたびに多様な形で節理して働いてくださり、すぐ悔い改めて再び立つようにしてくださいました。そんな過程を通して神様が私をとて愛して下さるのか深く悟りました。

娘の病気を治してくださいました神様の奇跡を見て世のことに力を尽くして、世俗的な楽しみと成功だけを求めてきた私ですが、愛の神様がわたしの行いで審判しないで長く忍耐してください、私を救ってくださいました。わたしの切ない祈りだった魂の救いもまた神様がわたしの祈りに答えてくださって神様の時になると神様の方法で働いてくださり、成し遂げてくださると信じます。

“神の賜物と招きとは取り消されないものなのです。”(ローマ11:29)ハレルヤ！神様の大きい恵と愛に感謝を捧げます。いつも神様の前で溫柔で謙遜な姿勢で生活をして命の冠を得るまで主のことに忠誠を尽くします。



## [信仰コラム]

### 義に飢えかわいている人

“義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足りるようになるであろう” (マタイによる福音書 5:6)

神様の命令に逆らって罪を犯した人間に死亡と呪いが宣告されました。罪は人間の命と幸福に致命的な損傷をもたらす原因であります。従って、損傷と苦痛と死がない世になるためには罪が除去されるべきで義人だけがいる所にならなければなりません。天国がそのような所です。この世はいつかは終末が来ます。そして最後の審判があります。その日に義人と悪人が分離されるでしょう。このような事実を考えながら“義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足りるようになるであろう”というイエス様の御言葉を調べてみます。

第一、義に飢えかわいているということは‘霊的な渴望’です。

義は肉的事業ではなく霊的なことであり、世俗的なことではなく神聖なことです。イサクの息子双子の中で肉親の能力によって自信があったエサウはこの世のことに對する欲望は強くありましたが霊的なことについては関心がありませんでした。その反面、幼い時から母親の周囲で生活したヤコブは神様が与えてくださる言約と福を尊く考えて渴望しました。ヤコブがエサウを騙して長子権を獲得して父親に行き祝福を受けるために取った行為は正しくないが、彼が霊的なことを慕って渴望する態度は高く評価できます。ヘブライ

書 12 章に“一杯の食のために長子の権利を買ったエサウのように、不品行な俗悪な者にならないようにしなさい。あなたがたの知っているように、彼はその後、祝福を受け継ごうと願ったけれども、捨てられてしまい、涙を流してそれを求めたが、悔改めの機会を得なかったのである。”と記録されています。

第二、‘飢えかわいている’人のように義を慕うべきです。

イエス様が言われた通りに‘飢えかわいている’ことは単純な憧れや漠然な期待を話すことではなく飢え死にする人の飢えのようであり、今飲まないで死ぬ人の渇きのようなことです。ヤコブがヤボクの渡しで夜中に神様の天使と組討ちしながら祝福を渴望したその心情で私達が義を慕わなければなりません。ヤコブがしつこく握って祝福を求めると神様の天使がヤコブのものつがいを打ったのもものつがいが外れました。その後にはヤコブに祝福しました。ヤコブが神様の天使にしつこくしがみついたその姿勢を私達が見習うべきです。

第三、義に飢えかわいているという御言葉で‘義’が何であるかを調べてみます。

人は生まれながら罪性をもった罪人として生まれます。罪人には神様の怒りがその上に留まっています。結局には神様の審判を受けて地獄刑罰に処されます。地獄刑罰を免れるためには正しくならなければなりません。聖書が言う義とは道德的な義、行為による義ではありません。神様が要求なさる義は罪は一度も犯さなかつ

た状態を言います。正しくで聖なる神様の前に立たれる資格を言います。

第四、義に飢えかわいている人は幸いである、‘彼らは飽き足りる’としました。

“彼らは飽き足りる”と言われた御言葉は神様から正しいと判決を受けるということです。神様が罪のない神様の独り子をこの世にお送りなさい、罪人の罪を代りに担当させられました。そうしてイエスキリストを信じる者は正しいと判決してくださいます。誠に幸いな消息であり驚くべき恵みです。正しくなる道はとても簡単であり明瞭です。”イエスを信じる者は正しい。”これは裁判長でおられる神様の判決です。

‘飢えかわいている’という言葉は現在の持続的な状態を意味します。義を慕うことは一瞬間だけではなく現在の継続的なことであるべきです。そして‘義に飢えかわいて’状態は義人のように生きるために渴望することも含まれます。この世を生きる間、義人のように神様を喜ばせながら生きることを渴望すべきです。義に飢えかわいた人は幸いです。イエスキリストの中で神様の義を賜物として受けます。毎日義人のように生活させてくださる聖霊様の能力が臨みます。皆さんは、このような生活をしてとうとう義が居る所、新たな天と新たな地で永遠に福楽を享受しながら生きるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

## 祈ればどんなことが起こるか



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

祈る人が知るべきと信じるべき最も基本的なものがあります。第一に、神に向かって、自分が望むことを申し上げるのが祈りなので、祈りは難しいではないでしょう。第二に、自分の過去、現在、未来の關係のすべてのことが、祈りにあたるということです。第三に、自分が求めたように、応答されないとしても、祈る者に従う有益が多いのです。第四に、神の時で神の方法と神の御旨のままになるのが最善の答えであるということです。今日は、私たちが祈ればどのようなことが起こるのか対して、見て見ます。

### 第一は、皆さんが祈れば神があなたを助けてくださるように行なわれます。

神は助けを求める者を蔑視しないし無視しないです。神は祈り者にその顔を向けて耳を傾けであり助けの手を差し伸べてくださいます。このような事実を保証し約束された言葉が聖書に多く記録されています。「この苦しむ者が呼ばわったとき、主は聞いて、すべての悩みから救い出された」(詩編 34:6)しました。今日の本文には、「地を造られた主、それを形造って堅く立たせられた主、その名を主と名のっておられる者がこう仰せられる、わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されている事を、あなたに示す」(エレミヤ書 33:2、3)しました。聖書には、神が私たちの祈りを聞き、仕事をなされるのを実際の事例が多く記録されています。

まず、創世記 18 章に記録されたアブラハムの場合を見てみましょう。

ある日、神様が天使たちと一緒に旅人の姿で、アブラハムの天幕を訪問されました。アブラハムとサラに神の言約が成就されるのを言われました。その後、主はアブラハムに言われた、「ソドムとゴモラの叫びは大きく、またその罪は非常に重いので、わたしはいま下って、わたしに届いた叫びのとおり、すべて彼らがおこなっているかどうかを見て、それを知らう」(創世記 18:20,21)しました

アブラハムは神に言った。「まことにあなたは正しい者を、悪い者と一緒に滅ぼされるのですか。たとい、あの町に五十人の正しい者があっても、あなたはなお、その所を滅ぼしもし五十人の正しい者のうち五人欠けたなら、その五人欠けたために町を全く滅ぼされますか」。主は言われた、「もしそこに四十五人いたら、滅ぼさないであろう」アブラハムの嘆願を聞いた神は言われた。「アブラハムはまた重ねて主に言った、もしそこに四十人いたら」。主は言われた、「その四十人のために、これをしないでであろう」アブラハムはソドムに住んでいる甥ロトを考えています。

「主よ、私の甥の家族がソドムに住んでいます。彼らのためにソドムの町を審判しないでください。」と懇願していない神の義に頼って嘆願しました。これらの訴えが的中して、主がアブラハムこの数字を続けて下げ、50人から45人、45人から40人、40人で30人、30人から20人、20人から10人まで調整していても応諾しました。

ところが、ソドムとゴモラは滅亡しました。正しい人が10人なかったのです。アブラハムの祈りの核心は、ロトとその家族のためのものであること、神が考慮されました。そして、天使二人を送ってロトと彼の妻と二人の娘を硫黄の火の審判が臨む直前にソドム城で引き出すようにしました。神がアブラハムの祈りを聞き、ロトを救うために仕事を行っていることです。

次は、列王紀下 20 章に記録されたヒゼキヤ王の場合を見てみましょう。

ヒゼキヤはユダ王国の第 13 代の王で 29 年間統治しました。彼が王位に上がったから 14 歳の年に深刻な病気になりました。預言者イザヤは王を訪問し、この病気が致命的なものであることがわかりました。身辺整理をして、王室と国事のためにすべての措置をとるように勧告しました。ヒゼキヤ王は顔を壁に向かって号泣して祈りました。彼号泣した理由は、王位を継承する相続がまだなかったし、まだ 40 歳の若さであり、国が強大国の侵略の脅威を受けている状況だったからです。ヒゼキヤ王を訪問し、帰る預言者イザヤが王宮の庭を行かない時に、神の言葉が望みました。「かつ、わたしはあなたによわいを十五年増す。わたしはあなたと、この町とをアッスリヤの王の手から救い、わたしの名のため、またわたしのしもべダビデのためにこの町を守るであろう」(列王紀下 20:6)

神はヒゼキヤが神のいつくしみに頼って号泣しながら求めるので、それに応答されるように行っていることです。もしヒゼキヤ王が祈っていない場合、神がヒゼキヤのためにそのようなことをしていないことです。皆さんが祈れば、神があなたのために仕事を行っているという事実を信じてください。確かに驚くべき感謝しています

### 第二には、あなたが祈ると祈り自分に変化が起こります。

祈れば高まった心が低くなります。祈れば心が貧しくなります。「こころの貧しい人たちは、さいわいである、天國は彼らのものである」(マタイによる福音書 5:3)としました。心が貧しい人は満足するのが分かります。使徒パウロは、ローマの獄中でピリピ教会に送る手紙に記録するのを「わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。わたしは貧に處する道を知っており、富における道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に處する秘けつを心得ている」(ピリピ人への手紙 4:11,12)しました

祈れば覚れた心になります。神の言葉にふさわしくない自分の理論とこだわりが破ります。祈りというのは、全能絶対主権者である神に向かうことです。したがって、祈る人は、主の足の下に伏せ姿勢にならねばなりません。

祈れば心が大胆になります。神が共におられて助けてくださるといふ確信が心に一杯になります。

神殿の美しい門から足障害者を癒した使徒ペテロとヨハネがこれを奇異に思われソロモン殿に集まった群衆に説教している途中に逮捕されて投獄された。翌日サンヘドリン議会で質問を受けました。公議会の会員たちは、使徒たちを処罰する法律を見つけることができなくて、彼らにイエスの名前でもなく教えることもいけないという命令をした後、ペテロとヨハネを釈放しました。ペテロとヨハネは、まっすぐ、他の弟子たちと聖徒たちが集まった所に行きました。ペテロとヨハネの言葉を聞いた聖徒たちがすぐに行った行動は、祈りでした。彼らは心を合わせて祈りました。

「主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大膽に御言葉を語らせて下さい。そしてみ手を伸ばしていやしをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい」(使徒行傳 4:29,30)使徒や聖徒が心を合わせ祈りが終わると、彼らは集まったところが振動しました。すべてが聖霊に満たされました。すると大胆に福音を伝えました。

使徒パウロは、聖霊の感動に受け言われた「何事も思いわずらってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と意思とを、キリスト・イエスにあって守るであろう。最後に、兄弟たちよ、すべて真実な事、すべて尊ぶべき事、すべて正しい事、すべて純真な事、すべて愛すべき事、すべてほまれある事、また徳といわれるもの、稱賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい」(ピリピ人への手紙 4:6~8)しました。祈れば神の思が私達の心に流れ込んで来て、私たちの心と意思を変化させます。そして真れ敬虔で正しい浄化し、愛するに値すると賞賛に値すると徳たり栄誉さになることを考えるようにします。考えの変化は、言葉の変化と行動の変化を引き起こします。

### 第三には、祈れば、自分が直面している困難な状況が解消されたり、有益な状況で変化します。

エジプトを出発したイスラエル人は、神の命令に基づいてシンの荒野を離れ彼らの旅のとおり行われレビデムで幕を張れました。その時アマレク人がイスラエルを攻撃しようと近づいてきました。彼らは好戦的で勇猛しました。モーセがヨシュアに言った、「私たちのために人々を引っ張ってアマレクと戦え明日私は神の杖を手を持って山の頂上に立つであろう。」としました

ヨシュアは装丁を連れて出て行って戦ったモーセは、背後で祈りました。モーセが手を上げると、イスラエルが勝ちモーセの腕が疲れなっ手を下げるアマレクが勝ちました。これを見たアロンとフルは石を取って、モーセの下に置き、その上に座られました。そして、アロンとフルが一つはこちら側では、一つは、向こうからモーセの手をささえたので、その手が日が下げる内に降なかった。するとヨシュアがアマレクとその民をつるぎで打って勝ちました。神の助けを望む祈りは状態を改善させます。災い転じて福となるようにします。

聖徒の皆さんは、自分の祈りが神があなたのために働きを施すし、自分自身を変化させ、困難な状況を解消したり、有益な状況に変化されるようになることを深く留意し、祈りに努めてください。